

第7回 夏季全国医学生離島実習

実習 目標

離島医療の現場を体験し、
地域医療のロールモデルの1つとして、
離島医療体制と現場における
医師の役割を学習する。

- 1:離島医療現場における診療体制を見学する
- 2:離島医療現場におけるプライマリ・ケアを見学する
- 3:離島医療現場における保健・福祉活動を体験する
- 4:離島医療現場における全人的医療について考える
- 5:医師以外の職種の役割について考える

対象

全国の医学部生 4・5・6年生対象

成果発表

平成26年8月2日(土)奄美大島(県立大島病院)に集まりシンポジウム形式で発表し、お互いに情報交換する。

(実習先で体験したことを紹介し、離島医療の魅力について発表する)

(各組の診療所での共通点・相違点について討論し、離島医療への理解を深める)

後日、実習の感想を1200字程度でまとめてe-mailで提出する。

実習期間

平成26年7月27日(日)～8月3日(日)

指導教員

大脇 哲洋

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター 教授)

根路銘 安仁

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター 准教授)

網谷 真理恵

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター 特任教授)

自己 紹介

奄美大島コース

Tさん (群馬大学5年)

離島ならではの地域医療を学ばせてもらいたいと思います。

また、貴重な機会なので奄美大島を満喫し、全国のみなさんとも仲良くなれたらと思います。

Kさん (東京医科大学4年)

離島、という普段新宿という都会の病院とは真逆の場所で行われている医療を実際にみて、医師と患者さんがどのような関係で結ばれているのか、都会の医療とはどこが違うのかを学んで、医療のありかたについて、この実習を通して考えてみたいです。

自己 紹介

徳之島コース

Iさん (東京医科大学5年)

- ・離島の空気を味わう
- ・考え方(歴史との関わり)を知る
- ・行政とどのような連携をしているか学ぶ
- ・大学病院で提供される医療との違いを考える

Kさん (筑波大学4年)

離島実習で学びたいことは以下の4つである。

- ・離島での医療とはどのようなものなのかを体験し、大学病院との違いを学ぶ。
- ・離島の自然を体感する。
- ・普段と異なる環境に行くことでコミュニケーション力や体力、忍耐力を養う。
- ・プライマリケアというものを、目で見て学ぶ。

Hさん (九州大学4年)

普段とは異なる環境に身をおいて、いろいろなことを吸収したい。実際に医療の場を見ることによって、普段勉強しているときには知らないことを心にとどめた上で、自分の足りないところを見つけたい。また実際に活用できるところは活用しこれからの勉強のモチベーションを高めたい。

Aさん (聖マリアンナ医科大学5年)

せっかく頂いた離島実習の機会、しかも与論島での実習ということで、首都圏の病院には経験できない限られた人材と資材の中での初療やプライマリケアをぜひ見学させて頂きたいと思います。また、他大学から集まる医学生の皆様との交流や、島の文化に触れることも楽しみにしています。

Kさん (東京慈恵医科大学4年)

様々な医療現場や、そこで働く医師の姿を見て、自分の将来を考えたいとの思いから応募しました。ずっと千葉の繁華街で暮らしていて、離島は行ったことがないので、医療現場で学ぶだけでなく、離島ってどんなところなのか体験したいという思いもあり、ワクワクしています。

あ

ま

み



お

お

し

ま

メンバー

(敬称略)

担当: 離島へき地医療人育成センター 根路銘 安仁

・Tさん(群馬大学5年)

・Kさん(東京医科大学4年)

実習の流れ

※スケジュールの変更や追加はメール/リストで更新していきます。

7月27日(日)

14:00~16:00 ホテルタイセイアネックス2号館Aホールにてオリエンテーション
(実習説明・自己紹介・デジタル機器の貸出・写真撮影・夕食、朝食買出し等)

18:00 鹿児島新港発
~船中 泊~



コクトくん

7月28日(月)

5:00 名瀬港着 バスで古仁屋に移動

6:26 古仁屋着

8:00 瀬戸内町へき地診療所
請島巡回診療

~民宿「海」泊~



7月29日(火)

午前 公民館にて介護予防事業「笑顔教室」/午後 診療所見学
~民宿「海」泊~



7月30日(水)

終日 瀬戸内町へき地診療所実習
~宿「海」泊~



7月31日(木)

終日 バス巡回診療
~宿「海」泊~



8月 1日(金)

終日 地域診断実習(グループで行きたい場所を決めて行動します。)

ホテルニュー奄美チェックイン

21:00 報告会準備

~ホテルニュー奄美 泊~



黒潮の森マングローブカヌー

8月 2日(土)

9:00~12:00 報告会(県立大島病院会議室 各グループ20分/全体討論30~60分)

12:00~18:00 観光(奄美大島)

18:00~21:00 食事会(大浜海岸でビーチパーティBBQ)

~むつみ寮 泊~



8月 3日(日)

08:00 解散(各自朝から自由行動)

奄美を満喫するもよし!
その他 離島に足を
のぼしてみるもよし!

瀬戸内町へき地診療所



診療所外観



平瀬 雄規 先生



花輪 宏明 先生

郵便番号	894-1510
住所/電話/FAX	大島郡瀬戸内町古仁屋瀬久井西13-2 電話 0997-72-3211/FAX 0997-72-3762
管理者(院長・所長)	平瀬 雄規
診療科目	内科、外科、小児科
診療時間	8:30~12:00/14:00~17:00 土・日・祝・年末年始休診
病床数	19床
スタッフ	医師2名、看護師15名、放射線技師1人、事務8人、看護助手3人、調理員4人
設備	心電図、人工呼吸器、エコー、レントゲン、CT、生化学分析装置、全自動血算器、呼吸機能検査装置、血ガス分析器、Holter心電計、上下部内視鏡検査装置
所長からのメッセージ	へき地の診療所であっても都会の総合病院であっても基本的な考えは同じで、「自分がしてもらいたいことを患者さんにも提供する」ということです。自分や自分の身内と思って検査、診断、治療、説明、紹介などするように心がけること。そうすることで医師として人として成長するのではと思いつつ、私自身日々努力しているところです。なかなか容易にはできませんが……。

実習施設の特徴・実習内容

自治医大卒の医師(内科系1人、外科系1人)計2人で診療しています。通常1人が診療所で外来診療(胃・大腸内視鏡、各種超音波検査も含む)や各種検診、入院患者(19床)の管理を担当し、もう1人が巡回診療をしています。いわゆる「町のお医者さん」として赤ちゃんからお年寄りまで、慢性期疾患から救急疾患(応急処置、必要に応じて搬送)まで特殊な疾患を除いたほぼすべての治療に携われることが魅力的です。巡回診療では主に慢性疾患の管理が中心となりますが、巡回バスという全国でも珍しい形態で診療を行っています。是非一度体験して下さい。

実習後の感想

「実習の感想」

奄美大島コース:群馬大学5年 Tさん

この文章を書いているのは実習の約1週間後ですが、楽しかった離島実習が昨日のことにように思い出されます。「普段の実習とは違った体験をしてみたい。奄美大島って面白そう」と正直あまり深く考えずにこの実習に参加させて頂いたのですが、この実習に参加することができて本当に良かったと思います。人口100人ほどの請島での診察の見学、瀬戸内へき地診療所や住用国民健康保険診療所で毎日多忙ながら住民の方々のために奮闘する先生方の姿、役場が主催する介護予防事業の笑顔教室、巡回バスでの診察等、今回見学させて頂いたすべてのことが自分が今まであまり知ることがなかった医療の形で、このようなことを体験させて頂いたことは自分の今後の大学生活や医師になってからの人生に必ず良い影響を与えてくれるものだと思います。

奄美大島での生活も最高でした。おいしい食べ物、きれいな海、マングローブ原生林、ウミガメ等々どれも海のない県出身の自分にとって新鮮でとても楽しい体験となりました。台風が上陸して人生初のとんでもない暴風雨を経験したことも今となっては良い思い出となっています。

今回の実習で大学病院や都市部の大病院とは全く違った医療の形態を直に体験できたこと、奄美大島の自然やそこに住む方々の生活に1週間ではあるけど触れ合えたこと、全国から集まったみんなと出会えたことは一生忘れられない思い出になりそうです。

奄美グループを引率して下さい、毎日自分たちが楽しめるように完璧なプランを立ててくださった根路銘先生、今回の実習を企画して下さい、大脇先生、嶽崎先生、網谷先生をはじめとする鹿児島大学の離島へき地医療センターの方々、様々な実習先でお世話になった方々、一緒に奄美で実習してくれた花ちゃん、今回の実習で出会えた6人のみんな、本当にありがとうございました。

今回の実習でなにより良かったことは奄美大島を好きになれたこと、最高の仲間たちに出会えたことだと思います。ありがとうございました。



実習後の感想

「離島実習に参加して」

奄美大島コース:東京医科大学4年 Kさん

今回私がこの離島実習に参加したきっかけは、私が離島医療をモデルにしたドラマ「Dr.コトー診療所」に感銘を受けて医療という世界に興味を持ったこと、また、NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」という番組で紹介された地域医療に取り組む中村伸一先生に憧れを抱いていて、へき地での医療を実際に自分の目で見てみたいと思ったからです。

今回私は、瀬戸内町へき地診療所と住用国民健康保険診療所という二つの診療所でお世話になり、へき地診療所では、診療所内の見学だけでなく、海上タクシー（漁船）で行く請島への診療や、巡回バスによる診療も見学させていただきました。正直漁船で行く請島の診療は「リアルDr.コトー」で感動的でしたが、自分の想像以上にハードで、船酔いでフラフラになり、診療所の医師の方々の大変さを体感する良い機会となりました。

どちらの診療所でもたくさんのお話を学ばせていただきましたが、そのなかで最も印象的だったのが住用診療所での野崎先生の診察風景と請島での往診です。住用診療所の野崎先生は、患者さんの誕生日や家族歴まで把握しており、冗談を言ったり常に笑顔の絶えない診察だったり、患者さんの「心」に寄り添えるよう常に心がけていらっしゃっていました。患者さんも私たちが模擬的に診察をさせていただくときは不安が顔からにじみ出ているのに、野崎先生に後退するとパッと顔が明るくなり、あらためて野崎先生と患者さんとの関係の深さを感じました。医師との関係の深さがにじみ出ていました。また、請島の往診では、末期のすい臓がんの患者さんがすごく穏やかな顔をして「やっぱり島にいとすとずっと楽になる」とおっしゃっていて、「島で患者さんを見る」意義をその患者さんの表情から感じました。病ではなく人を診る、ということを感じたように思います。

また、今回は実習以外でもたくさんのお話を堪能する機会を与えていただきました。なんとといっても台風です。直撃されたおかげで寝ていても目が覚めるほどの暴風雨と停電におびえ、観光も制限され、与論島のひとが奄美大島に来れず最後の発表会に参加できなくなるなど予定が狂ってしまい大変でしたが、振り返ればこれも島を知る良い経験だったのかなと思いました。また、夜は毎日のように島料理を堪能し、黒糖焼酎を人生で初めて飲み、そのおいしさも知りました。

最後に、引率して下さった根路銘先生、へき地診療所の方々、役場の方々、住用診療所の方々、鹿児島大学の先生方、事務の方々へ感謝申し上げます。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

奄美大島コースでは、瀬戸内へき地診療所での実習だけでなく、直接診療所に来られない方たちのために、漁船（海上タクシー）を使った巡島診療や、巡回バスによる診療もみることが出来ます。

奄美大島は離島、というイメージとは少し違い、都会的な部分もありますが、へき地診療所では地域に根差した診療が行われていて、都市部での診療との違いを肌で感じる事が出来ると思います。

奄美大島コース 【良かった点・改善した方が良い点】



①ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

【良かった点】

- ◆これからばらばらになるみんなと集まれたことがよかった。
- ◆すべての参加者と顔を合わせられたのでよかった。

【改善した方が良い点】

- ◆特になし。

②行きのフェリー

【良かった点】

- ◆みんなと仲良く話ができてよかった。
- ◆あまり揺れなかった。

【改善した方が良い点】

- ◆特になし。



③実習先(医療機関・行政機関)

【良かった点】

- ◆様々な診療所等を見学させてもらえてよかった。
- ◆皆さんとても優しくしてくださり、実習しやすかった。特に、今年特別に受けてくださった住用の診療所実習が印象に残ったので、今後も実習ができるとういと思う。

【改善した方が良い点】

- ◆自分が事前に調べていなかったのも悪いのですが、それぞれの診療所等の特徴を前もって教えてもらえたらよかった。
- ◆巡回バスは揺れて酔って大変だったので、酔い止めを飲む対策をした方が良いと思う。

④宿泊施設(各地施設)

【良かった点】

- ◆ホテルニュー奄美はきれい値段もお手頃でよかった。
- ◆ホテルニュー奄美はとても快適だった。

【改善した方が良い点】

- ◆民宿海のトイレ、風呂、洗濯機が男女共同であった。

⑤地域診断実習(観光)



【良かった点】

- ◆奄美を満喫できた。台風が来た時も根路銘先生のおかげで楽しめることができた。
- ◆台風の中、雨の日プランを先生が考えてくださり、雨なりに楽しめた。

【改善した方がよい点】

- ◆特になし。

⑥参加費用

【良かった点】

- ◆安くはないが実習内容を考えるとかなりお手頃だと思う。
- ◆食費をかなり負担してもらい、島ではほとんど出費がなかった。

【改善した方がよい点】

- ◆何にどのくらいのお金がかかっているかを教えてもらえるとありがたかった。



⑦報告会

【良かった点】

- ◆それぞれの班の様子を知ることができてよかった。
- ◆他のコースとの違いを知ることができ、有意義だった。

【改善した方がよい点】

- ◆与論コースの人たちが来られなかったこと。全員が参加してやれるようにしてほしい。

⑧実習全般

【良かった点】

- ◆先生方に何から何まで面倒を見ていただき、本当に充実した実習になりました。
- ◆4年でオスキーもやっていない状態だったが、一から丁寧に指導してもらえ、とても有意義だった。

【改善した方がよい点】

- ◆今回は日程の都合で参加人数が少なくなってしまったと聞いたのでもっと参加者が多くなるような日程にもらえると思う。

と

く

の



し

ま

メンバー

(敬称略)

担当: 離島へき地医療人育成センター 大脇 哲洋

・Iさん(東京医科大学5年)

・Kさん(筑波大学4年)

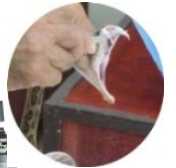
実習の流れ

※スケジュールの変更や追加はメール・リングリストで更新していきます。

7月27日(日)

14:00~16:00 ホテルタイセイアネックス2号館Aホールにてオリエンテーション
(実習説明・自己紹介・デジタル機器の貸出・写真撮影・夕食、朝食買出し等)

18:00 鹿児島新港発
~船中 泊~



ハブ咬傷講義

7月28日(月)

09:10 亀徳港着

10:00~12:30 徳之島保健所訪問(①ハブ咬傷関係講義、ハブ見学②講演「くらしに寄り添う保健と福祉」)

午後 宮上病院実習

~宮上病院 泊~



徳之島保健所

7月29日(火)/ 7月30日(水)

終日 宮上病院実習

~宮上病院 泊~



サトウキビ畑

7月31日(木)

地域診断実習(グループで行きたい場所を決めて行動します。)

~宮上病院 泊~



うぎうさぎ

8月 1日(金)

地域診断実習(グループで行きたい場所を決めて行動します。)

17:00 亀徳港発

20:25 名瀬港着(ホテルニュー奄美へチェックイン)

21:00 報告会準備

~ホテルニュー奄美 泊~



あまぎくん

8月 2日(土)

9:00~12:00 報告会(県立大島病院会議室 各グループ20分/全体討論30~60分)

12:00~18:00 観光(奄美大島)

18:00~21:00 食事会(大浜海岸でビーチパーティBBQ)

~むつみ寮 泊~



8月 3日(日)

08:00 解散(各自朝から自由行動)

奄美を満喫するもよし!
その他 離島に足を
のぼしてみるもよし!

医療法人南溟会 宮上病院



診療所外観



宮上 寛之 先生

郵便番号	891-7101
住所/電話/FAX	大島郡徳之島町7268/電話 0997-82-0002/FAX0997-83-0695
管理者(院長・所長)	宮上 寛之
診療科目	内科・外科・小児科・放射線科・泌尿器科・呼吸器科・消化器科・胃腸科
診療時間	平日 午前 9:00～12:00 午後 14:00～18:00 日曜日・祝祭日: 休診
病床数	41床

施設の特徴・実習内容

医療法人南溟会 宮上病院は、明るくリラックスした雰囲気を受診できると高齢者のみなさまにも評判です。困った事があれば、ベテラン看護師になんなりとご相談くださいませ。私どもは、親切、丁寧はもちろんのこと、正確な診療を柱として、これらの充実に真剣に取り組む事が使命だと考えております。これからも地域の皆様一人一人の健康と、幸せを見守り続けてまいります。

【関連施設】

- 特別養護老人ホーム「南風園」
- ケアハウス「いこいの里」

実習後の感想

「離島実習に参加して」

徳之島コース:東京医科大学5年 |さん

この実習の感想をもし一言で表すならば、「楽しかった」となります。小学生のような安易な感想ですが、「楽しむ」ことを核としたプログラムなのだとしひしと感じました。離島医療についてがりがり学びたい、という人には向いていないかもしれません。島の人や医療・介護に携わる人の心意気や空気に触れたい、という方にはとてもお勧めの実習です。

続けて徳之島実習ならではのと感じた点を紹介すると、保健所に伺える、ハブについて詳しくなる、病院見学で訪れる病院(宮上病院)の規模が大きいという3点が挙げられます。特に最後の点に関して、離島でここまでのレベルの医療を行っている、という体感を得られたことはとても貴重でした。

私自身、以前に徳之島に行かれた方々の感想を読んでもいまいちピンと来なかったのですが、宮上病院はとても面白い立ち位置の病院でした。スタッフの職種や人数・病床数・設備・月に数回であるが専門の先生に診てもらえる、という点では小型の大学病院のようでしたが、求められている役割は薬の処方や高血圧のフォローといった診療所的なものもとても多く、また患者さんの年齢層の高さ(徳之島では今まさに高齢化のピークにあるらしい!)やのんびりした姿勢は離島ならではの感じました。ポリクリや病院見学で見てきた病院のどれとも違い、奄美大島の診療所とも違い、「地域に沿う医療」の多様性にめまいすら覚えました。と同時にそういった医療の流動性、可能性を実感することもできました。離島では特に、医療に対する人口・経済・地形・歴史などの影響が色濃いことから、状況に合わせて常に模索し続ける姿勢が重要です。「仕方ない」で片づけられる部分が多いからこそ、より良い医療の形を実現しようと挑戦する必要があります。挑戦し、現実と折り合いをつけ、少しずつ変わっていく。そこが面白い部分であり難しい部分でもあるのでしょうか。

もちろん、病院実習以外でも学べたことはたくさんあります。東京生まれ東京育ちの自分は離島の環境や空気が合わないのではないかと危惧していましたが、そんなことはなく拍子抜けしました。海の青色の種類を数えたり、台風をやり過ごす島の雰囲気を感じたり、島の人々の全くわからない方言に驚いたり、特定の人とずっと一緒にいた(徳之島では同性同士一室)経験は離島実習ならではのであり、どれもとても新鮮で楽しかったです。1週間でわかる部分はほんの表面的だったとしても、直観的に徳之島の空気は自分に合っていたと思います。

より長い期間滞在していたらもっと色々なものが見えてくるでしょうが、入り口としては十分な経験と感想と愛着を得ることができました。その証拠に、スーパーでは黒糖焼酎やパッションフルーツの前で足を止め、台風情報の時は日本列島の左下に目が向かってしまいます。それもこれも離島へき地医療人育成センターの方々の準備と、受け入れてもてなして下さった徳之島の方々の人柄があったからこそです。この場を借りて感謝申し上げます。

実習後の感想

「実習の感想」

徳之島コース:筑波大学4年 Kさん

私は、「離島の医療とはどのようなものなのか知りたい！」という思いから離島実習に参加しました。行く前は1週間の実習を長いと思っていましたが、いざ行ってみると毎日があっという間でとても楽しかったです。この離島実習は主に、病院実習・観光・報告会の3つに分かれていたので、それぞれについて感想を述べたいと思います。

まず、病院実習についてです。私は徳之島コースだったので宮上病院にお世話になりました。実習に行くまでは、「離島の病院だから医療機器も少なく、患者さんもそんなに多くなくてのんびりしているのだろうな」とイメージしていましたが、宮上病院は徳之島の中核病院でX線・CT・MRIもそろっている大きな病院でした。また、患者さんの数も多く病院のみなさんはとても忙しそうに働いていらっしゃいました。外来見学・実習を中心に、病棟回診や手術も見学させていただき、先生方が診察の合間にレクチャーもして下さいました。宮上病院で実習して一番に感じたのは、「離島の病院は何でも見なくてはならない」ということでした。1カ月に数日、専門の先生が来て診察をすることはありますがそれ以外は全て自身で診察せねばならず、幅広い知識の必要性和経験の豊富さが重要なのだと思いました。それは同時に、離島医療ではたくさんの症例を経験できることにつながるとも感じました。また、偶然ハブに咬まれた方のお話を聞くこともでき、本州にはいないハブの恐ろしさを身近に感じることができました。

次に観光についてです。残念なことに今年は台風が来てしまい、海を満喫したりのんびり徳之島の自然を体感したりすることはできませんでした。しかし、自然の脅威を体感するいい機会になったと思っています。また、台風の中ではありましたが徳之島の観光場所である金見ソテツトンネルやムシロ瀬などにも連れて行っていただき、とても楽しかったです。海を満喫できなかったのが唯一悔やまれるので、徳之島にまた訪れようと思います。

報告会は与論島コースの3人が合流できず、小ぢんまりと行われました。奄美大島の医療と徳之島の医療を比較することで、離島医療というものがいかに多様なものであるのかを実感しました。「離島医療は地域や人口、地形によっても変わる」という先生のお言葉がとても印象的で、徳之島以外の離島も行ってみたいと思いました。

初対面の人たちと1週間の実習ということで初めはとても緊張していましたが、今年は学生が7人と少人数であったこともあり、すぐに仲良くなることができ、良い仲間と出会えたと思っています。最終日に10分だけ全員が集合できたのもとても嬉しかったです。

最後に、この実習でお世話になった離島へき地医療人育成センターの皆さま、宮上病院の皆さま、引率して下さった大脇先生に感謝いたします。この経験を大切にして、これからも頑張ろうと思います。本当にありがとうございました。

徳之島コース

【良かった点・改善した方がよい点】



①ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

【良かった点】

- ◆全員で集合することで、違うコースの人とも自己紹介することができた点。
- ◆実習をサポートして下さった事務の方々ともお会いすることができた点。
- ◆話がさくっと終わったこと。

【改善した方がよい点】

- ◆買い物はむしろ違うグループと行きたかった(今回台風で最後集まれる日数が少なかったから)。

②行きのフェリー

【良かった点】

- ◆あまり揺れなかった!
- ◆シャワーが綺麗だった点
- ◆皆で1つの部屋だったので、気楽に過ごすことができた点。
- ◆全員で一室に泊まれたこと。

【改善した方がよい点】

- ◆船内での食べ物は高いので、船に乗る前に余分にご飯を買っても良かったと思う。

③実習先(医療機関・行政機関)

【良かった点】

- ◆先生方が熱心に指導して下さった点。
- ◆手術も見学できた点。
- ◆ハブを見られた点。
- ◆患者さんとお話しできた点。
- ◆台風により滞在が延期した時に、実習させて下さった点。
- ◆保健所に行けたこと。
- ◆ハブについて学んでからハブ咬傷の患者さんを見ることができた。
- ◆同じ病院に何日もお世話になったので、雰囲気や物の配置にも慣れ、より良く把握することができた。



【改善した方がよい点】

- ◆訪問診療を見たかった。
- ◆ハブに触れなかった。
- ◆保健所に行けたにもかかわらず行政と医療のつながりが良く見えなかった(こちらの準備不足です)。
- ◆訪問診療をもっと見てみたかった(月末は少ないようです)。
- ◆徳之島の診療所も見ることができればもっと嬉しかった。

④宿泊施設(各地施設)

【良かった点】

- ◆キッチン、お風呂、洗濯機などすべてがそろっていた点。
- ◆スーパーが近かった点。
- ◆病院も近かった点。
- ◆先生も近くで安心した。
- ◆食材と身ひとつで生活できるくらい何もかも揃っていた。
- ◆とてもきれい。

【改善した方がよい点】

- ◆実習前にもう少し中の様子を知りたかった。

⑤地域診断実習(観光)

【良かった点】

- ◆台風を体感できた点。
- ◆徳之島を一周できた点。
- ◆海も少し入れた点。
- ◆病院の方に案内して頂いた(少し申し訳なかった…)
- ◆台風観光にノリノリで付き合ってくれた大脇先生と友人に感謝。楽しかった！

【改善した方がよい点】

- ◆台風が来ることが分かっていたら、来る前に少し海に入りたかったです。
- ◆1日でも良いかもしれません。



⑥参加費用

【良かった点】

- ◆食費を全て出して下さったこと。
- ◆台風で奄美大島合流の日程や手段が変更になったにもかかわらず、最小限の出費で抑えて下さったこと。
- ◆宿代、船代を考えるとちょうど良いと思いました。
- ◆飲食代を殆ど先生方が払ってくださったので、とてもありがたかったです。

【改善した方がよい点】

- ◆参加費用に何が含まれているのか知りたかったです(参加費以外にどれくらい持っていけばよいのか予測しづらかったです)。
- ◆台風が来た場合にどれくらい予備で持っていけば良いのかも分かって安心だと思います。



⑦報告会

【良かった点】

- ◆台風がきているなかで報告会ができたこと。
- ◆他のコースとの違いを比較できたこと。
- ◆「離島医療とは？」について皆で考えられたこと。
- ◆体験していることも違えば考えていることも違うので、是非やるべき。

【改善した方がよい点】

- ◆全員そろわなかった点。
- ◆BBQができなくて残念でした。
- ◆もう少ししっかり準備すればよかった(こちらの反省です)。

⑧実習全般

【良かった点】

- ◆引率の先生方が台風慣れしていて素早く飛行機のチケットを取ってくださったりと、とても安心でした。
- ◆毎日美味しい郷土料理を食べられて幸せでした。
- ◆徳之島コースは女子2人で1週間ずっと一緒に生活で、とても仲良くなりました！
- ◆「楽しむ」ことに中心を置いたプログラムだとはっきりしているところ。
- ◆触れるもの、感じることを参加者側に選択させてくれるところ。
- ◆離島へき地医療人育成センターの方々が本当に気を配って下さったこと(もっと放っておかれても大丈夫です！)。
- ◆素敵な先生方、医学生の間に出会えた。
- ◆予定などが書かれた冊子がとても素敵だった。見るだけでわくわくした。

【改善した方がよい点】

- ◆奄美大島でも1日実習ができるとなお良いと思います。
- ◆各大学での告知をもっと目立つようにしてもらえば、全国から医学生が集まってより面白い集団になると思う。



よ

ろ

ん



じ

ま

メンバー

(敬称略)

担当: 離島へき地医療人育成センター 網谷 真理恵

・Hさん(九州大学4年)

・Aさん(聖マリアンナ医科大学5年)

・Kさん(東京慈恵会医科大学4年)

実習の流れ

※スケジュールの変更や追加はメール・リングリストで更新していきます。

7月27日(日)

14:00~16:00 ホテルタイセイアネックス2号館Aホールにてオリエンテーション
(実習説明・自己紹介・デジタル機器の貸出・写真撮影・夕食、朝食買出し等)

18:00 鹿児島新港発

~船中 泊~



7月28日(月)

13:40 与論港着

15:00 与論町役場訪問

16:00 パナウル診療所挨拶

夜 懇親会

~与論活性化センター 泊~



与論町役場

7月29日(火)/ 7月30日(水)

終日 パナウル診療所実習

~与論活性化センター 泊~



百合ヶ浜の砂洲

7月31日(木)

地域診断実習(グループで行きたい場所を決めて行動します。)

~与論活性化センター 泊~



8月 1日(金)

地域診断実習(グループで行きたい場所を決めて行動します。)

12:10 与論港発

20:25 名瀬港着(ホテルニュー奄美へチェックイン)

21:00 報告会準備

~ホテルニュー奄美 泊~



8月 2日(土)

9:00~12:00 報告会(県立大島病院会議室 各グループ20分/全体討論30~60分)

12:00~18:00 観光(奄美大島)

18:00~21:00 食事会(大浜海岸でビーチパーティBBQ)

~むつみ寮 泊~



8月 3日(日)

08:00 解散(各自朝から自由行動)

奄美を満喫するもよし!
その他 離島に足を
のぼしてみるもよし!

パナウル診療所



診療所外観



古川 誠二 先生

郵便番号	891-9308
住所/電話/FAX	大島郡与論町大字那間2747-1/電話 0997-97-2073/FAX 0997-97-5164
管理者(院長・所長)	古川 誠二
診療科目	内科・外科・小児科
診療時間	平日 午前 8:30~12:00 午後 16:00~18:00 土曜日 午前 9:00~12:00 午後 休診 日曜日: 休診
病床数	0床
スタッフ	医師1名、看護師3名、事務部5名
設備	心電図、内視鏡(胃カメラ・大腸ファイバー・気管支ファイバー)エコー(腹部・心臓兼用)、単純レントゲン、電子カルテ、全自動血算器、呼吸機能検査器、Holter心電計、動脈硬化測定器
所長からのメッセージ	1)人間とは、医師とは何者か？じっくりと自分自身に問いかけてほしい。 2)島嶼の医療システムを理解してほしい。3000年の歴史を持つ限られた島の生活空間の中で築き上げてきた生活様式、文化、価値観、常識など全般の理解と、そこに暮らす人間関係のあり方。 3)プライマリ・ケアとはなにか？その基礎から臨床まで。プライマリ・ヘルスケアの実践との連携を考えて、世界の発展途上国のことにも関心を持ってほしい。 4)在宅医療の現状とその問題点 地域社会、家族との関係においてどのように変化していくか。与論の現状とその変遷。 5)海と健康 代替療法、総合医療等を理解してほしい。 6)医療システムの中の開業医の立場とあり方について考えてほしい。

施設の特徴・実習内容

- 1) 木造平屋建築の外来と健康増進室があり、薬局は院内処方に対応。検査はSRL西日本に依頼。検尿、赤沈、CBCは院内で。レントゲン室、牽引、SSP等の簡単なリハビリ実施。
- 2) プライマリ・ケア医として地域とともにいかに生きるか。実技と地域の間人としての生き方についても実習。実技では内科一般、外科の小手技、小児、皮膚科、眼科などの治療を幅広く行い、腹部エコー、胃カメラ大腸ファイバーなどの実習も行う。
- 3) 島嶼医療のポイントであるトリアージについても考えてもらう。救急搬送すべきか、時間の余裕は？ターミナルケアの看取りなども機会があれば実習していただく。

実習後の感想

「実習を終えて」

与論島コース:九州大学4年 Hさん

実際に離島について、台風にも会い、ある意味「島」というものの実態を感じれたのではないかと、思います。パナウル診療所での実習も、一日目は見学、という形でしたが、2日目には、看護師の手技であったり、院内薬局での手技に携わらせていただいたりと、離島という面以外から見ても有意義だったと思います。聴診器と手動の血圧計を用いて血圧を測る方法を、ここに来てできるようになりました。

往診、訪問診療が、特に実習において本土と違うことのように感じられました。実際に家に伺い、患者さん以外にも患者さんの家族とコミュニケーションをとり、そのコミュニケーションの間でも、例えば虫に刺されたであるとか、そのような話ができるのは、患者さん以外の島の人々にとって非常に有益であるように感じました。

また患者さんの中には、ほぼコミュニケーションを先生ととりたいのかな、というような人もいました。すべての人がそうだと困るかもしれませんが、それも日頃からの医師と患者の壁を取り払うという面では重要なことかもしれません。

一つだけ気になったのは、子供で、高熱を出した子がいろいろな場所を触っていて、その直後の高齢の患者さんがその同じ場所を触ったことが気になりました。消毒とかはしないのかな…？と。

正直島そのものという意味ではあまり周りを見て回っていないのでわからない面も多いです。ほとんど車で移動したため、景観という意味でも分からないことが多いです。そこは今回の実習で少し残念でした。

台風を経験したことは実習と直接関係することではないですが、福岡で感じる台風よりもはるかに強いものであり、食材等が失われるということも感じられて、島の人々が自然現象に逆らわずも対応している様子が感じられました。

全体の発表会ができなかったこと、全体の発表会に参加できている人がそもそも少なそうだな、とメールで確認できることは残念でした。発表ができている人たちもかなり少人数の中でしていたのかな、と感じました。奄美大島という場所で発表会をすることにそんなにこだわらなくてもよいのでは？と感じました。悪天候が予想される場合なら鹿児島でやった方が先生方が参加しやすくてよいと思います。

発表ができなかったのは残念ですが、他はすべて充実していたと感じています。



実習後の感想

「実習の感想」

与論島コース:聖マリアンナ医科大学5年 Aさん

今回は貴重な機会を頂きありがとうございました。

往路ではフェリーで離島の遠さを実感し、与論島では酒と台風の猛威を体感し、帰路では初めてプロペラ機に乗るとい、なかなか味わえないスリリングな実習でした。

離島「医療」実習という意味では、天候の影響で実質1日半となってしまう、学び切れなかったという反省が残ります。ただ、外来、訪問診療などの見学を通して気付かされることはたくさんありました。

外来では、患者さん一人一人と顔見知りを通り越して友人同士のような会話をなさる先生のご様子もさることながら、東京の診療所との最大の相違点は生活環境等の背景であると感じました。一人一人と顔見知りという医療機関は少なくないと思いますが、矍鑠とした80,90歳が珍しくない、しかも毎日猛暑の中畑仕事をしているという環境でのプライマリケアを見学させて頂けたことは大変勉強になりました。神道の島であり、つい最近まで土葬だったということにもカルチャーショックを受けました。

また、訪問診療(往診との違いも初めて知りました)では、様々なお宅にお邪魔させて頂きました。「学生です」と自己紹介すると「どうぞ勉強してってください」と身体所見をとらせてくださったり、お茶を出してくださったり、医療と患者さんとの温かい関係を実感しました。90代のご夫婦の老老介護など、僻地医療ならではのと思われる症例も拝見しました。心に残っているのは、104歳のおばあさまの「お天道様と神様にお守り頂いて、この歳まで生きております」という言葉と、その合掌した姿です。

診療所内の実習でとても勉強になったのは、院内薬局の実習でした。調剤薬局がないため、処方された薬剤はここで整えますが、普段の大学病院での臨床実習では絶対に行わないことであるとともに、離島医療が(資材、人材ともに)限られた医療資源の中で行われているということを改めて感じることでできる実習でした。

後半は台風12号の接近による暴風雨で、海はおろか外に出るのもままならない日が多くなりましたが、天災によって食料が足りなくなるという危機感のある土地は初めてだったので、ある意味ではよい体験だったと思います。予定が変更になったおかげで、マンゴーの収穫をさせて頂くこともできました。ただ、与論島に行ったにも関わらず百合ヶ浜に行けなかったことが今回最大の心残りであると言っても過言ではありません。

今回図らずも医療より文化を体験することが多い実習となりましたが、その点では一番遠い島を希望した甲斐があったと思います。人口と牛の数に大差がない、鳥も蝉も歩いて移動する(古川先生曰く)島で充実した1週間を過ごすことができました。

報告会に出席できませんでしたので、2月を楽しみにしております。

ありがとうございました。



実習後の感想

「離島実習の感想」

与論島コース:東京慈恵医科大学4年 Kさん

もともと地域医療やプライマリ・ケアに興味があり、また、いろいろな現場で働く医師の姿が見たいと思ったことから、私は今回の離島実習に参加しました。実習を通して医療について学ぶだけでなく、実習を通していろいろな方とお会いして、自分が今までに経験したことのない環境に飛び込んで、少しでも自分の視野が広がればいいなどの思いもあったのですが、今回の実習では、そういった意味でも非常に有意義なものとなりました。

私が参加させていただいた与論島コースは、与論島での医療について学ぶ機会あり、与論島を満喫する機会あり、沢山のハプニングと素敵な経験ありで、とても充実していました。

パナウル診療所での実習では、ただ見学をさせていただきだけでなく、院長の古川先生や看護師・その他のスタッフの皆様から、与論島という場所で医療サービスを提供するにあたって心掛けていることに関して伺うことができ、皆様の熱い思いを感じました。パナウル診療所で働く方々が、患者様一人ひとりの声に耳を傾けて、日々の暮らしに寄り添おうとしている姿が印象的でした。パナウル診療所の方々のお話から、離島ならではの特徴や苦労を知ることができました。また、血圧測定や調剤も体験することができました。臨床実習がまだ始まっておらず、OSCEを受けるのもまだまだ先の話で準備さえしていなかった私にとって、1年生のときに大学で教わったおかげで辛うじてできる血圧測定を、実際に患者様に対して行うのはかなりドキドキしましたが、半年後に臨床の現場で実習を行うためにも、技能もしっかり身に付けなきゃいけないという意識が持てました。調剤に関しては、私の通う大学では薬剤部の見学しか行えず、調剤を体験するようなチャンスはなかったので、貴重な経験ができたと思っています。

台風が来てしまったせいで、与論島のとびきり綺麗な海で泳ぐチャンスはなく、膝まで浸かるくらいしかできませんでしたが、与論島のクーモア溢れる魅力的な方々にお会いして、観光して、美味しいものを食べることもできたので、台風にも負けず、しっかり与論島を満喫できたと思います。奄美大島へなかなか移動できず、報告会にも与論島コースのみ不参加となってしまったのは残念でしたが、台風に備えて食料を買い込んでみんなで料理をしたり、JACの小さい飛行機で与論島から奄美大島へ移動したりと、台風が来たおかげで新たな経験をすることもできました。

今回の離島実習を主催してくださった鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センターの先生方およびスタッフの皆様、古川先生はじめパナウル診療所のスタッフの皆様、与論献奉とともに熱く歓迎してくださった町役場の方々、奈々美さんと青流くん、離島実習に参加したキャラの濃すぎるメンバーのみんな、その他お会いした全ての方々にお礼を申し上げます。素敵な経験をありがとうございました。



与論島コース

【良かった点・改善した方がよい点】



① ホテルタイセイアネックスでの打ち合わせ

【良かった点】

- ◆話は比較的スムーズに進んでいたし、まとまっていたよかった。
- ◆顔合わせができたこと。
- ◆全体の流れがわかったこと。
- ◆外が暑い中、涼しい部屋でオリエンテーションすることができて良かったです。

【改善した方がよい点】

- ◆事後報告会だけでなく、事前の勉強会があってもいいと思いました。

② 行きのフェリー

【良かった点】

- ◆鹿児島島から奄美大島、与論島の距離を実際に経験できたのは、狙いで証が良いと思います。実際僕はそれまで、割とすぐ着くように思っていました。
- ◆グループで一部屋だったこと。
- ◆距離が実感できたこと。
- ◆飛行機より経済的？なこと。
- ◆全員で一部屋に泊まれて、他の団体と相部屋にならなかったのも、周りを気にせずリラックスできてよかったと思います。
- ◆あんまり揺れなくて乗り心地もよく、ぐっすり眠れて充実してました。
- ◆鹿児島本土から与論がいかに遠くにあるか実感できたのもよかったです。

【改善した方がよい点】

- ◆長時間フェリーに乗ることをわりと実感していなかったのも、なにか準備すべきものとか教えてもらえたらよかったかな、と思います。
- ◆与論島では実習の時間がどうしても短くなってしまおう。

③ 実習先(医療機関・行政機関)

【良かった点】

- ◆比較的、自由にいろいろやらせてくれてよかった。手技に実際にかかわらせてもらえたり、薬の受け渡しを僕たちに一部やらせてもらえたり、となかなかやる範囲が広くてよかった。
- ◆先生が学生用に資料を作ってくださっていたのはありがたかったです。
- ◆町役場の方々がとてもフランクに接してくださって親しみやすかったです。懇親会を開いてくださり、白い砂浜で与論ならではの美味しい食べ物をいただいたり、与論献奉を経験させていただいたのは、個人旅行ではなかなか体験できることではないと思うので、非常にありがたかったです。

パナウル診療所では、先生や看護師、スタッフの方々が、地元の方の声に親身になって耳を傾け、地元の方の生活を支えている姿が印象的でした。実際に血圧測定や薬剤部での実習をさせていただいたのもよかったです。特に薬剤部での実習は、非常に貴重な経験になりました。

【改善した方がよい点】

- ◆今回だけかもしれませんが、もう少し長く実習したかったです。

④宿泊施設(各地施設)

【良かった点】

- ◆自炊することで班員との結束が少し高まったと思います。
- ◆自炊できること。
- ◆基本的なものは一通り揃っていてよかったです。
- ◆部屋にエアコンがあってありがたかったです。



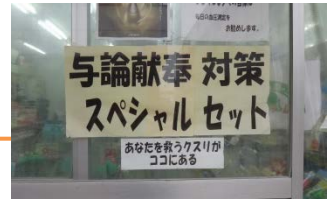
【改善した方がよい点】

- ◆僕は特に気になりませんが、虫よけとかは絶対用意すべきです。
- ◆今回は網谷先生のご家族もいらして人数が多かったので良かったのですが、例えば女子1人になるとかなり怖い思いををすると思います。
- ◆虫(主にヤスデ)がたまに出てくるのが気になったので、これから活性化センターに行かれる方は備え付けの蚊取り線香を使うなり、押すだけノーマットのようなものを持ってって対策するのがいいと思います。個人的に押すだけノーマットは簡単で効力あるのでおすすめです。
- ◆台所用洗剤が切れていたのでもストックしておいていただけるとありがたいです。

⑤地域診断実習(観光)

【良かった点】

- ◆活性化センターの管理人さん(竹村さん)のご厚意で農業体験ができた。
- ◆鍾乳洞やサザンクロスセンター、ギリシャ村、有村酒造など、天気が悪くても楽しめる場所があったよかったです。
- ◆あまりしていないのでなんともいえません。きつい状況のなかいろいろ考えてくださったな、と感じます。



【改善した方がよい点】

- ◆台風が来たので海でちゃんと泳げなかったこと、百合ヶ浜に行けなかったことが心残りです。
- ◆改善できることはありませんが、与論島は、天気が崩れると何もできません。
- ◆天候にかなり影響を受け、過去に半分以上天候による影響を受けているのに、あらかじめ悪天候時のプランがあまり考えられていないのは改善すべきだと思います。用意、準備の上で問題になります。

⑥参加費用

【良かった点】

- ◆比較的安く抑えて下さっていると思います。
- ◆今回は人数が少なかったからか、抑えて頂けて嬉しかったです。
- ◆帰りは台風で船が出ておらず飛行機にりましたが、その追加料金を考えてもリーズナブルだと思います。食費がほとんどかからなかったのは非常にありがたかったです。

【改善した方がよい点】

- ◆天気によって交通機関が変わりかなり変動するということを、事前に把握しておきたかったです。
- ◆参加費用について改善点はないですが、飛行機等を使う可能性があることの連絡を事前にしてくれれば、もうすこし金銭的にも準備できたのではないかと思います。

⑦報告会

【良かった点】

◆参加できなかった与論組は、執念でパワーポイントを作って根路銘先生にお送りしたのですが、報告会で流していただけたようで感謝しています。

【改善した方がよい点】

◆過去半数以上台風の影響でできていない、集まれていないことがあるのに、悪天候時に奄美大島で報告会をすることにこだわる必要はないかと感じます。天候が良いことが予想されるなら通常通り行えばいいし、そうでないなら鹿児島でやった方がみなさん集まりやすいかと思います。

◆台風で参加できませんでした(T_T)

⑧実習全般

【良かった点】

◆通常経験できないことが経験できたこと。

◆色々な方にお会いできたこと。

◆台風というハプニングに見舞われてできなかったこともありましたが、島の台風というものを経験できてこれはこれでよかったと思います。

いろいろ観光して美味しいものも沢山食べましたがまだまだ行きたくないところもあるのでまた与論には足を運びたいと思います。

【改善した方がよい点】

◆事前にもうすこし知っておきたいことがあったこと。

◆日程。

